

## 八海山山行報告

**【山行日】** 2014年 9月 28(日) 晴れ  
**【集 合】** 岩舟支所P AM 6:00  
**【費 用】** マイカー1台 : 4,400円  
**【メンバー】** CL:鈴木、岩淵、大西、島田、関、  
田村、福田々

**【コースタイム】 A :** 岩舟支所 P6:00=八海山 RW  
駅 P8:10+++山頂駅 8:30~女人堂 9:40~千本檜小屋  
10:30~大日岳 12:05/12:35~新開道分岐 12:50~千  
本檜小屋 13:20~女人堂 14:20~山頂駅 15:30~  
八海山 RW 駅 P16:00=岩舟支所 P18:30

**B :** 山頂駅 8:30~女人堂 10:00~薬師岳 11:20/12:00~女人堂 13:00~山頂駅 14:30/15:30

岩場や鎖場のスリルを体験したいとリクエストがあり、八海山ハツ峰コースを計画した。クサリ場はパスと言う人も参加したいと言うので、今回も健脚組とのんびり組に分けて計画した。八海山は、古くから信仰の山として登られており、麓から登る登山道がいくつかあるが、時間が掛かるので今回は往復八海山ゴンドラを利用して登ることにした。

ゴンドラの駅を降りて、すぐ前の鳥居がある丸太の階段が登山口だが、我々は右に進み緩やかな



迂回路を登る。すぐに尾根に出て、正規の登山道と合わさる。緩やかな尾根を進むと平坦になり、続いて下りになると左手に越後駒ヶ岳が見えてくるが、頂上は雲に隠れて見えなかった。

左からの大倉登山道を合わせ、池ノ峰脇の平坦な道を進むと漕池を右に分けて直進する。

その先から急になり、梯子を登って急登を頑張ると女人堂に出る。女人堂では沢山の登山者が休んでいたが、我々は休まず先に進む。女人堂から

下ると、水場のある祓川という沢を渡り、いよいよ薬師岳の登りとなる。ハシゴを登り、鎖が連続する岩場を登り、さらに10分ほど頑張ると薬師岳に着く。ここからの眺望は良く、越後駒ヶ岳や中ノ岳、これから向かう千本檜小屋の奥にはハツ峰の岩峰が聳えている。薬師岳から少し下って一登りすると千本檜小屋である。小屋には管理人がいて食事つきの宿泊が出来る。

トイレも有料で利用でき、我々もトイレを済ませ休憩する。いよいよここからハツ峰の岩峰が始まる。右に迂回路コースを分けて進むと、左のルンゼ状の岩場を鎖を使って登り、地藏岳と不動岳の鞍部に出る。一旦左に戻り地藏岳に行き、頂上で記念写真を撮る。頂上からの眺望は抜群で、駒ヶ岳や中ノ岳はもちろん、これから縦走するハツ峰の岩峰が紅葉に彩られ素晴らしい。不動岳まで行くと、先行者が



渋滞で繋がっていた。七曜岳への、下りと登りの鎖場が難しく時間が掛かっているようだ。見ている



と、怖さで鎖にしがみつき、中々進まないようだ。IさんとSさんに鎖は片手でつかみ、もう一方の手は岩のホールドをつかんで、足で登るように教える。二人とも上手に登り、とても楽しいと喜んでいて、それにしてもこのコースは素晴らしい。次から次へと鎖が連続し、痩せ尾根を歩く緊張感がたまらない。白河岳から釈迦岳を登り、下った鞍部が迂回路への分岐。この先、摩利支岳から剣ヶ峰、大日岳と続くが、自信のない人はここから迂回路へ下るとよい。先の

難儀していたグループは、ここから迂回路に降りたようだ。渋滞で時間が遅れたので、二人にこの先に行きたいか聞くと、「絶対に登りたい。」と力強い返事。登山者も少なくなり、写真を撮りながら快調に進む。摩利支岳から大日岳にかけての岩稜は紅葉が素晴らしい。二人は大満足で、大日岳で終わりだよと言うと「山頂で昼食を食べたい。」と言う。でも山頂は狭く危険なので降りてから食べることにする。大日岳から最後の鎖を下り、少し先の安全な場所でランチタイム。今日の山ごはんは焼きそば。焼いていると近くで昼食を食べていた人や、入道岳から戻ってきた修験者の方々が「いい匂いですね。」と声をかけてきた。帰路はもちろん迂回路へ回るが、これがまた中々大変な道だ。急なハシ



ゴを4本下り、新開道分岐を右に進むが、幅の狭い岩場のへつりや、クサリが数か所あり気を抜けない。二人とも快調に歩き、千本檜小屋へは予定よりも早く着いた。千本檜小屋で、不動岳から戻った二人と合流し一緒に下山する。登りと違って、登山者が少なくなり自分たちのペースで下れる。八海山遥拝所まで行き、その先の展望台まで行くと上から声がした。先に降りた二人が展望台の上でお出迎えしてくれた。残ったまんじゅうや果物でティータイム。お互いの登山の様子を話し、入会希望者の話で盛り上がり、ゴンドラに乗って下山する。



山麓駅の下にある売店脇で、八海山の水をペットボトルに詰め、お土産を買って帰路についた。

